

2007年 4月16日

会社名 株式会社 大丸
 コード番号 8234
 代表者名 取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 グループ本社 広報・IR部
 TEL 06-6281-9002

2007年3月度 大丸 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	3 月 度
百貨店業	1.5
スーパーマーケット業	5.9
卸売業	8.9
その他事業	20.8
連 結 合 計	0.1

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

2. 百貨店業 売上高概況

1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	3 月 度	
	売上高	入店客数
心齋橋店	6.8	3.7
梅田店	0.8	2.9
東京店	1.5	0.6
横浜店	-	-
京都店	0.6	4.5
山科店	4.0	-
神戸店	2.1	4.9
新長田店	3.3	-
須磨店	1.7	-
芦屋店	0.3	-
札幌店	2.9	4.9
直営11店舗計	0.9	1.2
博多大丸	4.9	2.0
下関大丸	2.5	8.4
高知大丸	1.6	3.9
今治大丸	1.9	4.0
百貨店業合計	1.5(2.2)	-

(注) ・直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸、札幌の6店計である。
 ・横浜店(ららぽーと横浜店)は平成19年3月15日にオープンした。
 ・百貨店合計売上高の()内数値は、除く横浜店の対前年増減率。

2) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	3 月 度
紳士服・洋品	1.6
婦人服・洋品	2.9
子供服・洋品	5.0
その他の衣料品	3.2
衣料品計	2.2
身 回 品	9.0
家 具	0.9
家 電	14.1
その他の家庭用品	2.5
家庭用品計	0.2
生 鮮	13.5
菓 子	4.5
惣 菜	11.7
その他食料品	6.9
食料品計	8.4
食堂・喫茶	6.5
化粧品	3.2
美術・宝飾・貴金属	1.5
その他雑貨	1.8
雑 貨 計	0.4
サービス	3.9
そ の 他	20.4
合 計	0.9

3. 概況

1) 百貨店業

- ・3月の百貨店業の売上高は、3/15に新規オープンした食品専門大店「大丸ららぽーと横浜店」が好調に推移したものの、中旬までの気温の低下が影響し、婦人服を中心に春物衣料が不調であったこともあり、直営店は対前年 0.9%減、全体では同 1.5%減であった。
- ・直営店の店別売上高は、35ヶ月連続対前年増の札幌店など10店の内3店が前年を上回った。なお、「大丸ららぽーと横浜店」は対目標35%増で推移。
- ・婦人服・洋品は、中旬まで低温で推移したこともあり、ジャケット、ニットなど春物衣料の主力アイテムが全般に不調であるとともに、心齋橋店特選婦人服フロアなどの改装工事に伴う売場閉鎖などの影響も加わり、苦戦した。紳士服・洋品は、カジュアルやゴルフウエア、催事などが好調に推移した。身の回り品は、春物パンプスなど婦人くつが伸ばしたものの、アクセサリーの不調が響いた。食料品は、「大丸ららぽーと横浜店」による嵩上げとともに、既存店でも生鮮三品から惣菜、菓子まで活発に動いた。食堂・喫茶は、心齋橋店のレストランフロア改装工事に伴う売場閉鎖が大きく影響した。雑貨は、好調を継続する化粧品が牽引した。
- ・博多大丸は、婦人くつ・ハンドバッグ売場の改装効果があったものの、春物衣料の不調が響いた。下関大丸は、美術・宝飾品に動きがあったものの衣料品の不振により苦戦した。

2) その他

- ・スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、3月に新規オープンした「三田伊皿子店」「東池袋店」「芝浦アイランド店」3店による嵩上げが大きく寄与し対前年5.9%増となった。地区別では、関東地区が上記3店の出店効果のほか既存店ベースでも対前年2.3%増と好調に推移したこともあり地区全体で同8.1%増となった。関西地区も同3.1%増と好調であった。
- ・卸売業の大丸興業の売上高は、電子部品やホームセンター向け商材が引き続き好調を継続したことにより対前年8.9%増となった。

お問い合わせ先	株式会社 大丸グループ本社	広報・IR部
	TEL	06-6281-9002
	FAX	06-6245-1343